

新池大塚古墳

寒川 史也

1. はじめに

古墳時代中期の吉備においては、造山古墳、作山古墳、両宮山古墳といった 300m・200m クラスの大型前方後円墳がたてつづけに築かれました。ところが、6 世紀古墳時代後期に入ると吉備では 50m クラスの前方後円墳が主体を占めるようになり、単純に規模の面でみても縮小傾向にあります。そして 100m クラスの前方後円墳も唯一、後期の後半に墳長 100m のこうもり塚古墳が見当たるのみといった状況で、やがて 7 世紀初頭をさかいに前方後円墳自体も築造されなくなります。

こういった前方後円墳の様相とは別に、後期には古墳が密集する形で群集墳が形成されるようになりました。地域ごとに多数分布する群集墳と、そこに採用された横穴式石室の変遷のあり方は、古墳時代後期から終末期の古墳社会をみていく中で重要な視点となってきます。

2. 古墳の諸元

新池大塚古墳は、岡山市北区新庄上新池に所在しています。古墳の立地する三須丘陵は、群集墳が数多くみられ、その中には長大な横穴式石室をもつ巨石墳も存在しています。古墳の測量調査は 2013 年に数日間実施しました。なお、須恵器など出土遺物についての情報は今のところ不明です。

調査の成果として、新池大塚古墳は丘陵裾部に位置する単独墳で、墳丘は南北長が 16.6 ～ 18.6m、東西長 14.5m のやや長方形近い方墳になると考えられます。墳丘の高さは比高差が 4m 近くあり、大きく山寄せしたつくりになっています。また現状では、段築・周溝・外護列石は確認できません。

また、石室は南東方向に開口しており、羨道部が削平を受けているものの両袖式の石室の全長は残存した部分で約 11m を測ります。詳細をみると、玄室部は、長さが 4.8m、幅が 2.3m となり、平面形は長方形となります。高さは奥壁側で約 2.3m ですが、石室内部には土砂が流れ込んでいるため、それ以上となります。石室の構築法に着目すると、奥壁は一枚岩からなっており、側壁は 3 ～ 4 石を基底石とし、そこから 2 ～ 3 段積み (奥壁側) を基調するつくりです。さらに、天井の石材は 3 枚で、玄室と羨道の境に懸架されるまぐさ石は一段低い位置にあり、備中地域の特色をよくあらわしています。

3. 終末期古墳としての新池大塚古墳の位置づけ

測量により新池大塚古墳は、備中の中心部ともいえるべき地域の終末期古墳の中でも先駆けて方墳を導入した可能性があり、このことは大きな意味をもつものと捉えられます。また、石室に関しても規模では及びませんが、その内容は吉備の三大石室の内、箭田大塚古墳や牟佐大塚古墳の石室に近いものをそなえています。特に、奥壁が 1 石となる有袖式の石室形態は、7 世紀前後段階に吉備地域において、まとまりをもって分布するようになります。

新池大塚古墳の南側には、時期が下って古代山陽道が通るルートがあり、三須丘陵周辺は交通の要衝でありました。終末期古墳の存在は、従来までの海と河川による人やモノの移動、情報等の交換に加え、陸上での交通や流通を握ろうとした当時の有力者の姿を浮かび上がらせます。そこには、古墳に採用される石室形態からみえるように、ある程度の自立性がみとめられる一方で、方墳という墳形からは畿内中樞勢力とのつよいつながりをもっていったことがうかがえます。

こうした畿内政権の、対外交渉を視野に入れた九州から瀬戸内を経由し畿内にいたるルートの整備と確保は、やがて古代山城の出現をもって結実するものと考えられます。

		備中	備前	
			砂川流域	吉井川東岸 牛窓湾
古墳時代	前半	● 二万大塚 (38)	● 廻り山 (45)	● 金鶏塚 (35)
	後期	● ころもり塚 (100)	● 鳥取上高塚 (67)	● 二塚山 (55)
	後半	● 江崎 (45)		● 亀ヶ原大塚 (40)
	終末期			

図 1 岡山県南部 古墳時代後期の主要古墳編年

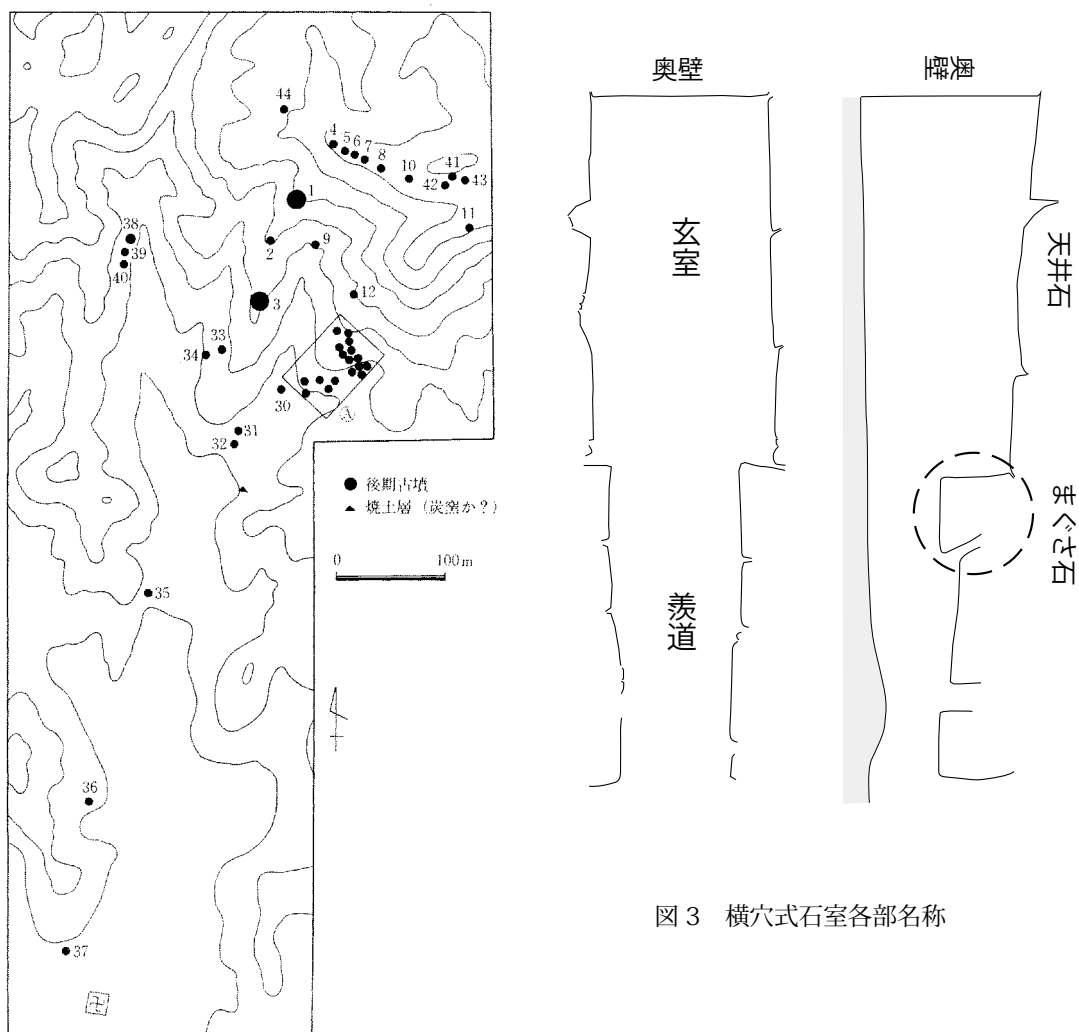
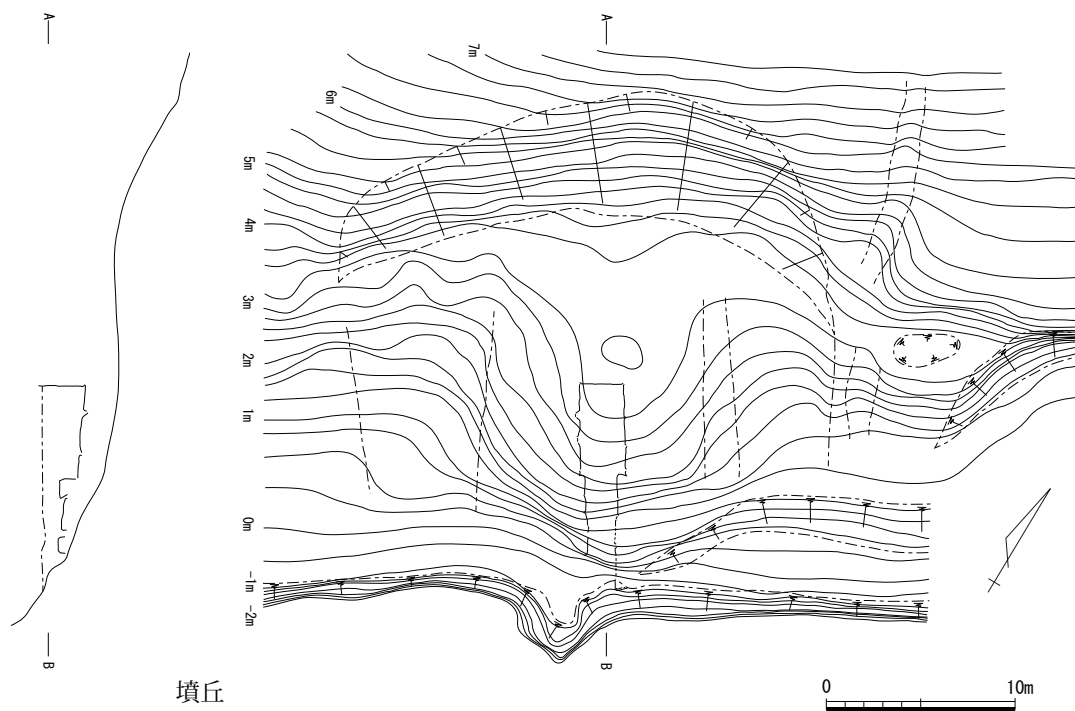


図 3 横穴式石室各部名称

図 2 足守川流域の後期群集墳の例 (大崎古墳群)



墳丘



石室

図 4 新池大塚古墳 測量図

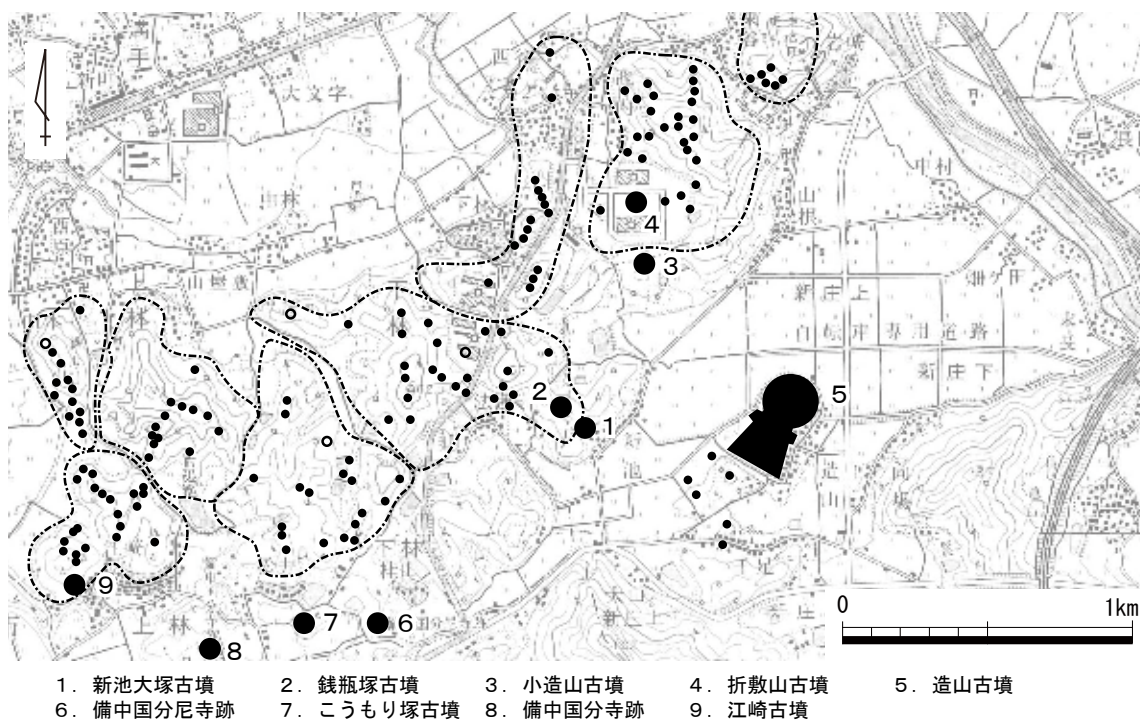


図5 新池大塚古墳 周辺の古墳分布

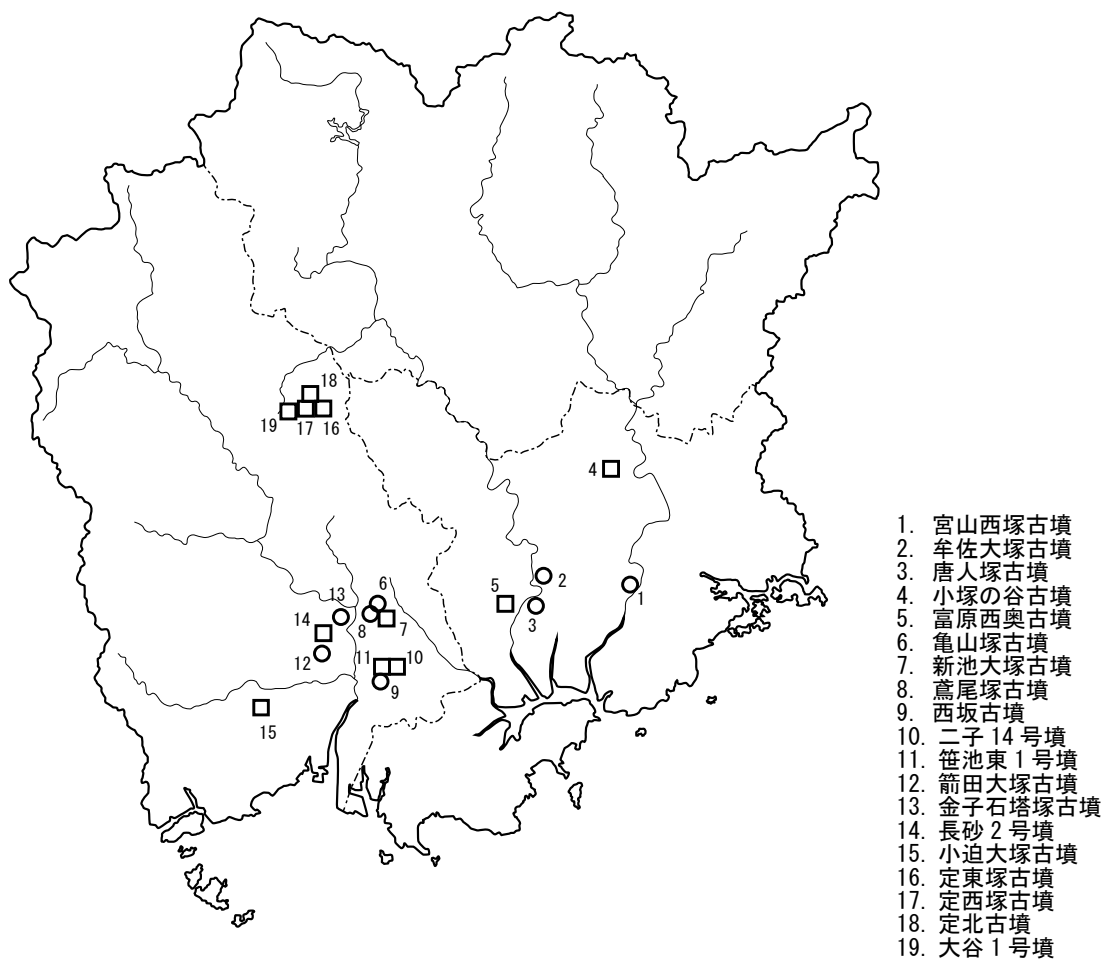


図6 岡山県内の主な終末期古墳の分布

番号	古墳名	所在	墳形	規模	立地	墳丘区画	外護列石	開口方向	時期
1	宮山西塚古墳	岡山市	円?	17 × 12	丘陵裾部	周溝	×	南南西	(6c 末～7c 初)
2	牟佐大塚古墳	岡山市	円?	30	丘陵裾部	不明	×	南南東	(6c 末～7c 初)
3	唐人塚古墳	岡山市	—	—	丘陵裾部	背斜面削平	—	南東	(7c 前半)
4	小塚の谷古墳	和気町	方?	8	丘陵谷部	周溝	○	南東	7c 前半
5	富原西奥古墳	岡山市	方	7	丘陵谷部	周溝	×	南	7c 中頃
6	亀山塚古墳	総社市	円	36	尾根筋頂部	不明	—	南	不明
7	新池大塚古墳	岡山市	方	16 × 14	丘陵裾部	背斜面削平	×	南東	(6c 末～7c 初)
8	鳶尾塚古墳	総社市	円	22.5	丘陵裾部	不明	—	東	(6c 末～7c 初)
9	西坂古墳	倉敷市	円	17 × 14	丘陵斜面	周溝	×	南東	6c 末～7c 初
10	二子 14 号墳	倉敷市	方	13	丘陵斜面	周溝	○	南南東	7c 中葉
11	笹池東 1 号墳	倉敷市	方	12 × 10	丘陵谷部	周溝	△	南	(7c 中葉～後半)
12	箭田大塚古墳	倉敷市	(造) 円	48	丘陵裾部	周溝	×	南東	6c 末～7c 初
13	金子石塔塚古墳	総社市	円	26	丘陵裾部	不明	×	南東	6c 末～7c 初
14	長砂 2 号墳	総社市	方	9	—	周溝	×	南	7c 中葉
15	小迫大塚古墳	矢掛町	方	27 × 25	丘陵谷部	周溝	△	南	(7c 前半)
16	定東塚古墳	真庭市	方	25 × 18	丘陵裾部	なし	○	南南東	7c 前半
17	定西塚古墳	真庭市	方	16 × 14	丘陵裾部	なし	○	南南東	7c 中葉
18	定北古墳	真庭市	方	21 × 25	丘陵谷部	なし	○	南	7c 中葉
19	大谷 1 号墳	真庭市	方	13 × 10	丘陵谷部	なし	○	南南東	7c 後半

表 1 終末期古墳の墳丘にみられる各要素

墳形…円：円墳、(造) 円：造り出し付円墳、方：方墳
 外護列石…○：有、△：存在する可能性あり、×：なし
 時期…() は出土遺物がなく石室形態などによるもの

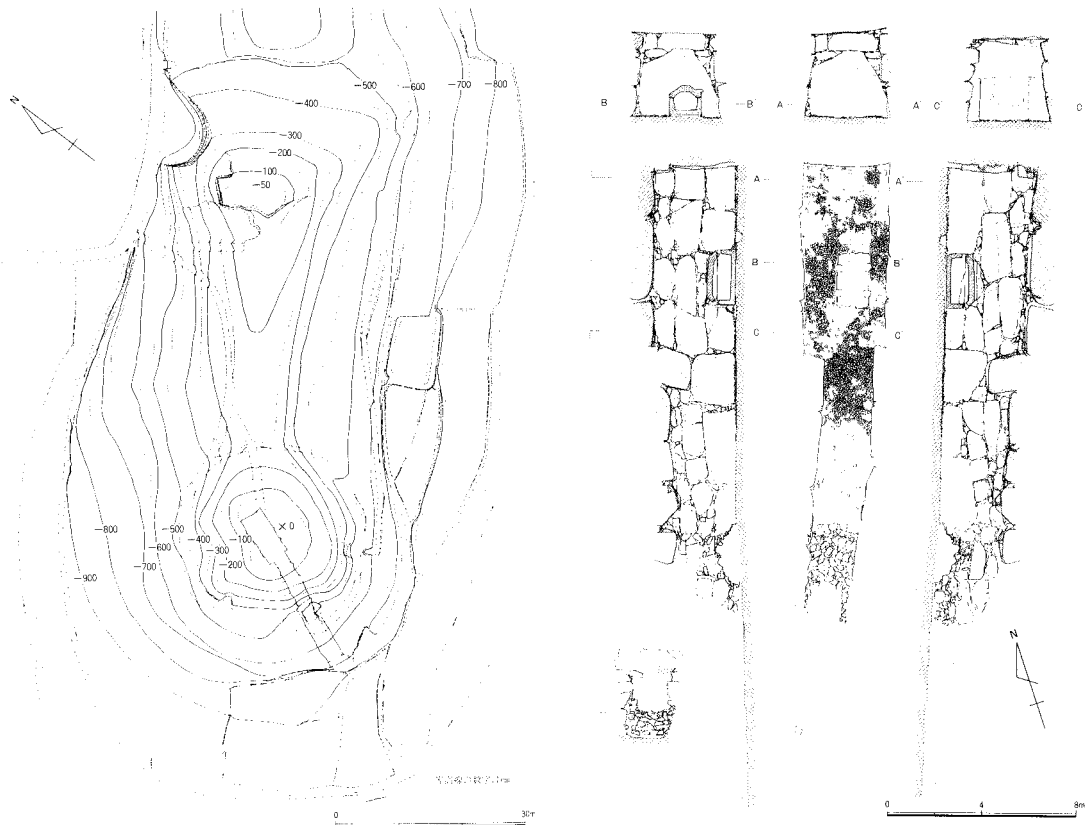


図 6 こうもり塚古墳 測量図

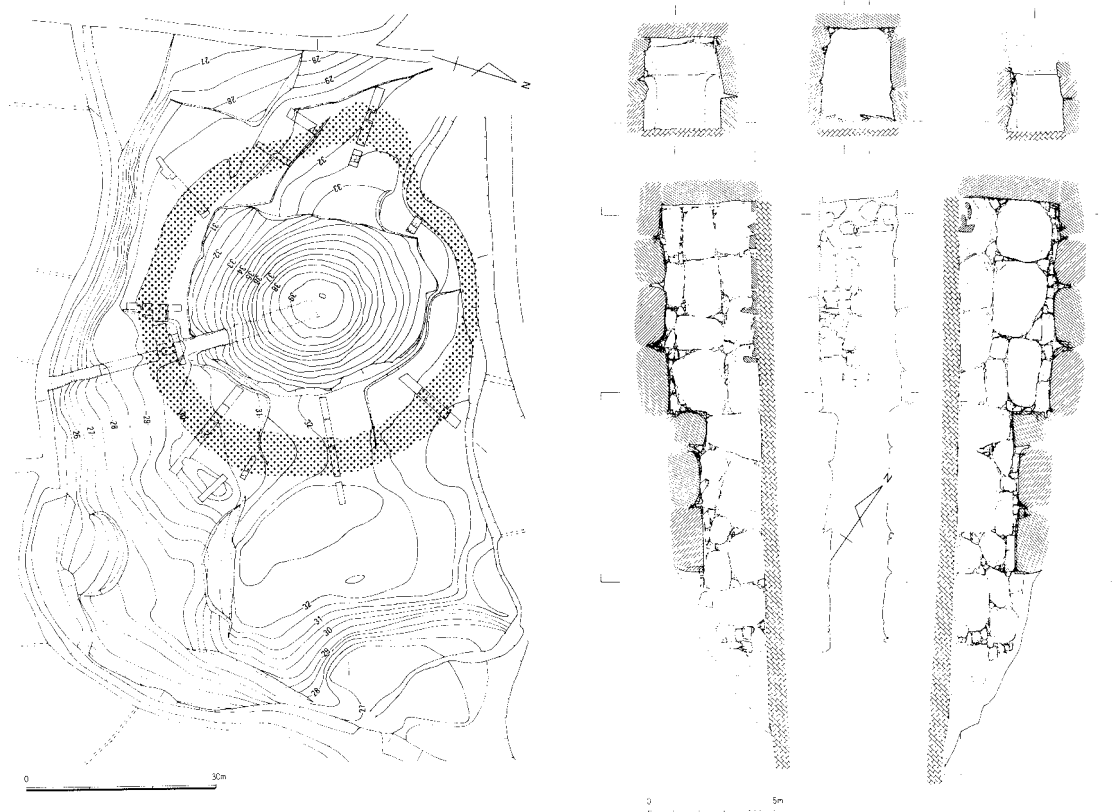


图7 箭田大塚古墳 測量図

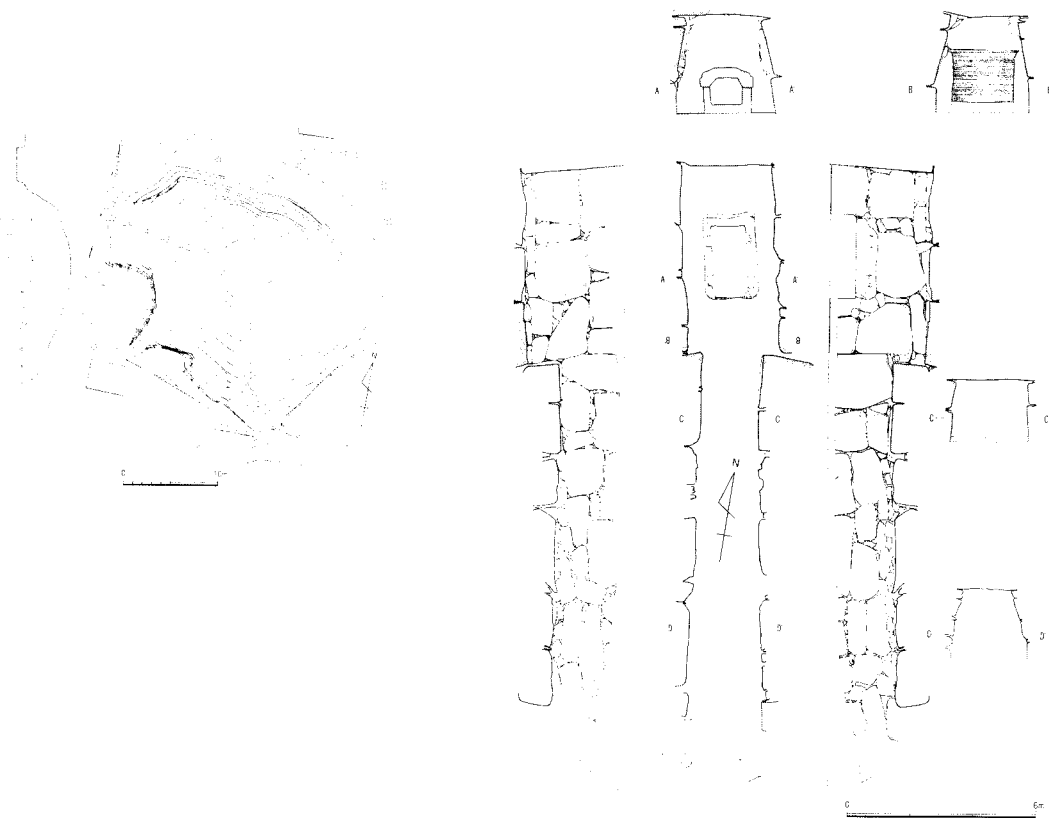
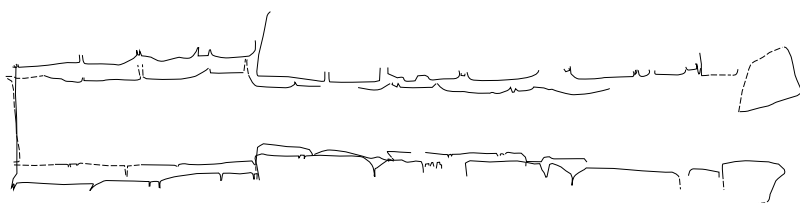
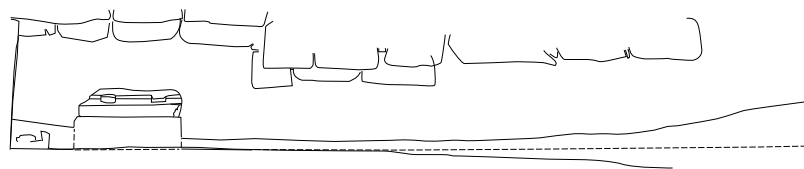


图8 牟佐大塚古墳 測量図



※ 上図：箭田大塚古墳 (71%) 下図：新池大塚古墳 (125%)

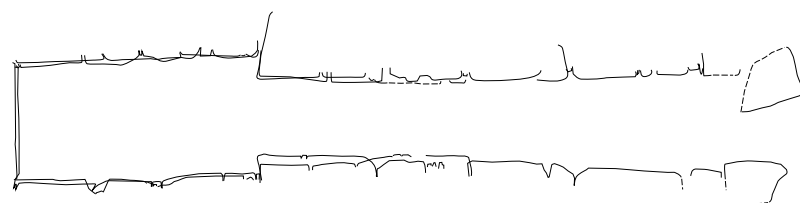


図9 箭田大塚・
新池大塚・牟佐
大塚3つの古墳
の石室比較

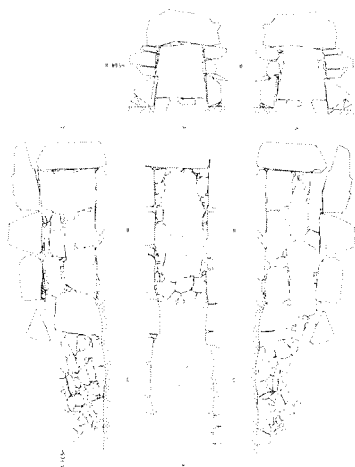
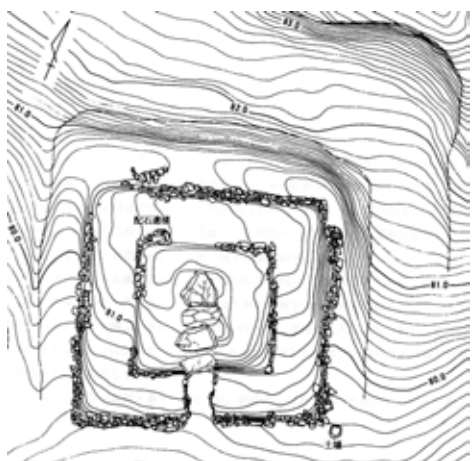


図10 二子14号墳
測量図

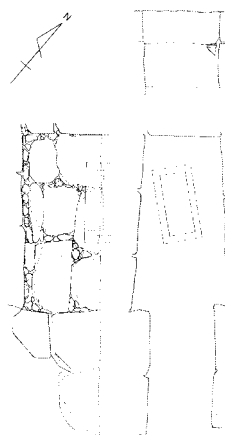


図11 唐人塚古墳
測量図

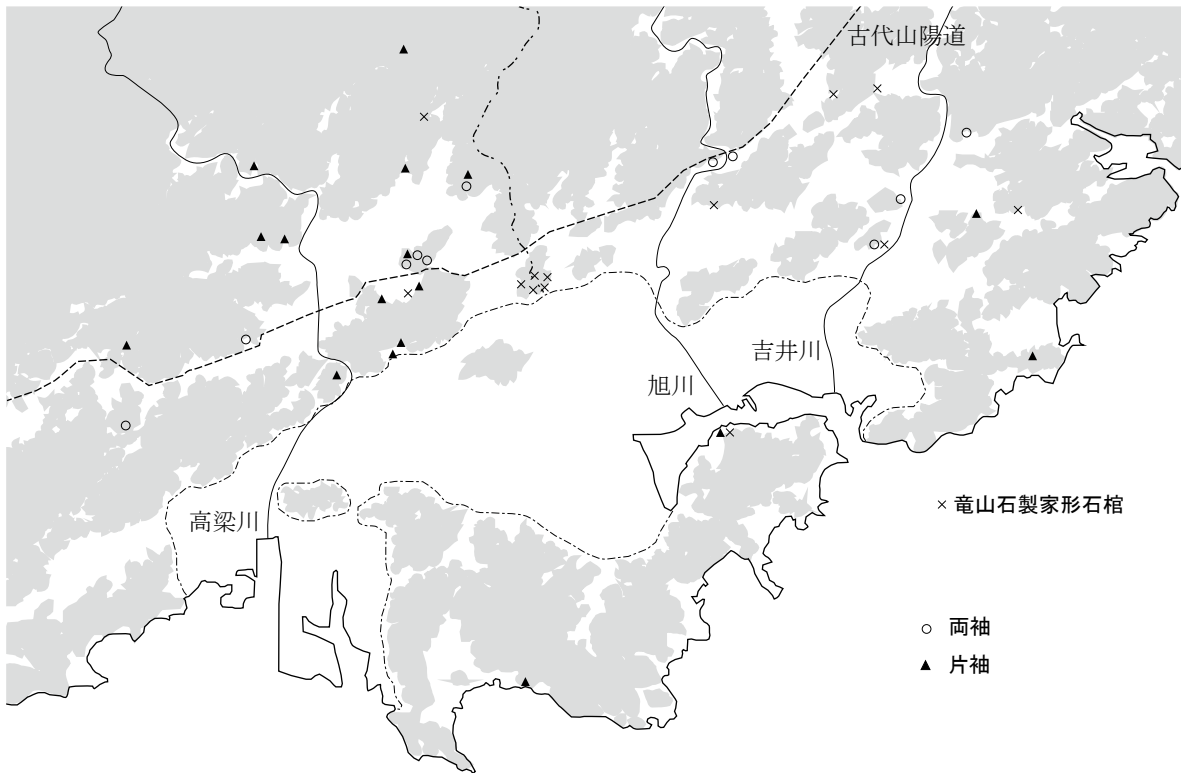


図 12 岡山県南部の奥壁が 1 石となる石室の分布

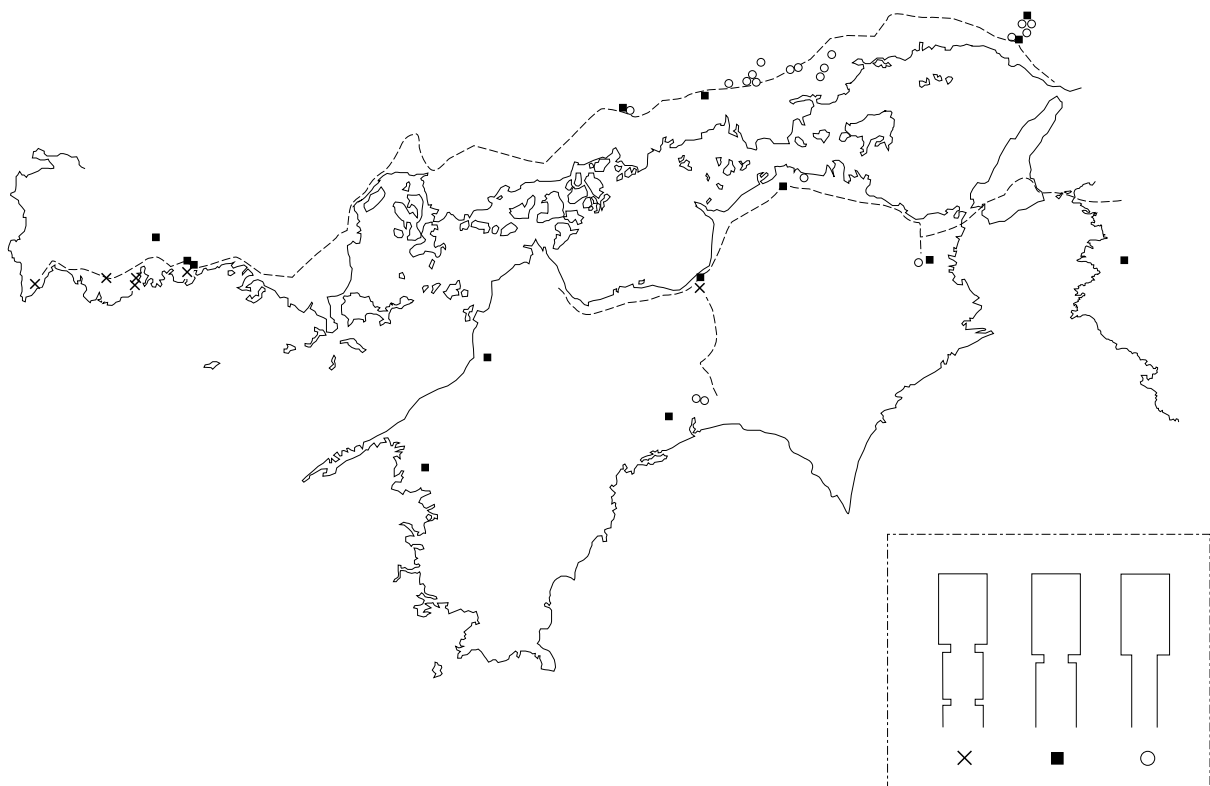


図 13 同例の山陽・四国における分布